



🌸 もうすぐ2学期が始まります。🌸

まだまだ暑い日が続いていますが、天高生のみなさん、お元気ですか？天高図書館も館内の特別清掃、蔵書点検が終わり、皆さんの来館を今か、今かとお待ちしています。新着図書も夏休み中にどんどん届いています。今回は、特におすすめしたい5冊を紹介します。

今年度も、ポプラ社主催の「全国学校図書館 POP コンテスト」(締切 11月30日)に参加します。図書委員の皆さんには、7月8日の委員会の時にお願ひしました。図書委員でなくても、参加できます。ぜひとも参加してみたいという人は、新学期になりましたら、図書館カウンターで、たずねてください。詳しくは こちらの HP をみてください。

<https://www.poplar.co.jp/schoolLibrary/pop-contest/>



『古本食堂』 原田ひ香 (角川春樹事務所)

東京の神田神保町は、古書店がたくさん並び、老舗料理店もたくさんあり、文豪たちから愛された町です。その町で古書店を営んでいた兄が突然亡くなり、店と兄の生活の整理をするために、北海道からやってきた妹が、古書店を廃業することもできず、なんとなく店を再開するところからお話が始まります。この古書店には、他の書店では解決できなかった悩みを持った人がやってきます。それぞれが抱える事情を聴いて、「もし良ければ読んでみて」と、店主が手渡す古書が、どれも本当に心に寄り添った本ばかり。たくさん本を読んでいないと、この本は手渡せないなあと思う選書です。そして、度々登場する料理の描写が、とても印象的でおいしそうです。古書とグルメどちらも楽しめる町、神保町に行ってみたくまりました。



『たまごの旅人』 近藤史恵 (実業之日本社)

主人公遙は、新米添乗員。子どもの頃に家族で行った海外旅行の添乗員に憧れて、添乗員になりました。添乗員としての仕事は、想像以上にきつくて、辛い仕事でしたが、知らない国に行くことで知った事や、発見した事も多く、やりがいを感じていました。癖のあるツアー参加者との出会いに驚き、面倒な事もたくさんありますが、楽しんでもらいたいという気持ちが、彼らにも伝わり、参加者も遙も「旅」の意義を見出してゆくというお話です。



コロナ以後の遙の生活は、想像通り厳しいものでしたが、その中でも、自分にできる事を捜し、前向きに生きていく姿からは、元気をもらいました。日本人には、あまり馴染みのない国がたくさん出てくるので、スマホを片手に読むと、その国に行った気になるお得な本でした。

『ショートケーキ』 坂木司 新潮社

皆さんは、ケーキの中で、何が一番好きですか？苺がのったショートケーキですか？主人公のゆかは、誕生日にはきまって苺がのったホールケーキを、家族3人で食べていました。しかしそれは、長く続かず、両親の離婚後は、いつものホールケーキも母と2人で食べるには大きすぎました。同じ境遇の同級生こいちゃんとの出会い、気持ちがざわざわしたり、モヤモヤした時には、ホールケーキをまるごと2人で食べる「失われたホールケーキの会」を発足しました。そんな時、父から「大事な話がある」と言われ、動揺してしまう2人。せっかく出て来たデザートも気持ちが落ち着かず食べる気持ちになれません。(第1話「ホール」)

この本は、連作短編集になっていて、それぞれのお話がつながっています。どれも心が癒されるケーキにまつわる優しいお話になっています。今年の誕生日は、ホールケーキを食べたくまりました。



『漫画方丈記』 鴨長明 信吉 (漫画) (文響社)

原稿用紙にすると 25 ページ程の短い作品『方丈記』が漫画になりました。鴨長明自身、何度も何度も、災害に見舞われ、たくさんの死に直面しながらも、自らの境遇を嘆くことなく、「自足する」という悟りの境地に至るということは、なかなか真似のできるものではありません。物があふれた現代社会で生きる我々にとって、満足する事はとても難しいことです。日常の中で生まれる「妬み」「怒り」という負の感情は、「自足の心」の足りなさから生まれるものだとも書かれています。この本を読んで、日々の生活を振り返り、「自足する」ということを自分自身に問い直してみたいと思いました。



『にゃんこ四字熟語辞典』 西川清史 (飛鳥新社)

四字熟語にこんなにピッタリな「にゃんこ」の写真があることに、まず驚愕します。そしてページをめくりながら、にやにや、くすくすしてしまいます。どれも本当におもしろいのですが、わたしが一番好きな写真は、「堅忍不拔^{けんじんふたつ}」のにゃんこです。みなさんも、ぜひお気に入りを見つけてください。

